

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473500591
法人名	株式会社保健科学研究所
事業所名	グループホームさくら園
訪問調査日	平成 20年 9月 11日
評価確定日	平成 20年 10月 4日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1473500591
法人名	株式会社保健科学研究所
事業所名	グループホームさくら園
所在地	横浜市栄区金井町1600 (電話) 045-858-3038

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市西区浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年10月4日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16 人	常勤	8人, 非常勤 8人, 常勤換算 11.18人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	52,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名	
要介護1	2 名	要介護2	9 名			
要介護3	6 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	77.8 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	港南台病院、西横浜国際病院、
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇当事業所は、JR大船駅西口よりバスで約10分の自然に囲まれた閑静な住宅地にある。近くには神社・寺院があり、四季折々の移り変わりを楽しみながら、安心して散歩ができる2ユニットのグループホームである。
 ◇建物内部は明るく清潔で、バリアフリーが徹底している居心地の良い住空間である。
 ◇事業所は医療連携加算の指定を受けており、協力医療機関の内科医と訪問看護師との連携がとれている。
 ◇利用者は、年間行事として、誕生会の他、節分や花見、七夕祭り、バーベキュー大会、クリスマス会などの季節に応じた多彩な行事を楽しんでいる。地域の神社祭礼時には、神輿を見物し地元の行事に親しみ、地域との交流を深めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・前回、平成19年10月に外部評価を受審し、以下の課題に取り組んでいる。 ① 平成19年11月に運営推進会議を立ち上げ、20年11月に3回目を予定している。 ② 防災・避難訓練は平成20年6月に実施している。 ③ 職員の育成はOJTが中心であり、外部研修への参加が望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ・自己評価の取り組みにあたっては、管理者がミーティングで職員にその意義と目的を伝え、職員が参画して意見を出しあい、管理者とリーダーが取りまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ・第1回の運営推進会議を平成19年11月に行い、その後は、平成20年6月に開催した。次回は20年11月に実施する予定である。 ・会議では事業所の近況報告、意見交換、家族からの要望などがあり、地域の理解と支援を得て運営面に反映するように努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ・家族の苦情や要望は、重要事項説明書に明記しており、入所時に説明している。 ・家族の来訪時には、気軽に要望が話せるように声掛けをして対応している。また、運営推進会議で提出された家族からの意見や要望は職員会議で検討し、サービスの質の向上に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ・利用者は町内会に加入し、近隣の人とはお互いに挨拶を交わしている。 ・地域の神社の祭礼時には、事業所の駐車場を神輿の発着場として提供している。また、事業所のバーベキュー大会やクリスマス会には地域の方々に参加し、和やかにふれあいを持ちながら交流を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「利用者の人格を尊重し、地域に融合したホーム」を理念としている。職員はいつも笑顔で明るく気持ちよく挨拶することを心掛けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は玄関フロア、1階の和室、2階のキッチンなどに掲示し、日頃の会議やミーティングの中でも話し合い、浸透するように努めている。 ・理念を手帳に記入し携帯している職員もいて、常に意識して日々の介護・介助にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会に加入し、地域の神社の祭礼時には、事業所の駐車場は神輿の発着場として利用されている。 ・事業所のメインイベントのバーベキュー大会とクリスマス会などには、近隣の人々が参加し交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者は、職員に自己評価票の内容を説明して周知を図り、職員が参画して意見を出しあい、各階のリーダーが作成して管理者が取りまとめた。 ・評価項目が、業務の改善に結びつくように、職員と面談して、サービスの向上に活かすように努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・前回の改善項目であった運営推進会議は、初回を平成19年11月に開催し、2回目を本年6月に実施した。次回は11月を予定している。 ・家族会では、運営推進会議の内容を報告している。 ・メンバーの地域ケアプラザ担当者からボランティアの紹介があり、中学生がボランティア活動のため来所したことがある。		

事業所名:グループホーム さくら園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・管理者は、機会ある毎に行政の窓口に出向き、事業所の運営や現場の実情、業務上の問題点などを伝え助言や指導を仰いでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・利用者の暮らしぶりについては、電話や家族の来訪時に声を掛け話し合っている。 ・家族へは、毎月「さくら園通信」を送付して、事業所の行事や利用者の健康状態を通知している。金銭出納帳や領収書も同時に提出している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議では、家族の意見や要望を聞き、運営面に反映するように努めている。 ・家族から要望や苦情があれば、職員間でミーティングを行い速やかに運営面に反映するように心掛けている。 ・年間行事のバーベキューやクリスマス会の機会に、家族等の集会を企画している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・利用者と職員の馴染みの関係を重視している。運営法人内の異動はほとんどなく、職員の異動や離職を最小限にすることで、利用者や家族の不安の原因とならないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修は、日常的に毎日の介護の中で、仕事を通じて訓練するOJTを主体にしている。 ・外部研修は限られた職員体制の中で、なかなか参加できない状況である。	○	・職員のレベルアップを図るため、OJTのみならず、外部研修も含めて、職員の人材育成の取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・横浜市栄区を3～4のブロックに分けたグループホーム連絡会に参加し、同業者と交流して意見交換を行い、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・職員が自宅を訪問し、利用者・家族に事業所を見学してもらい、希望を聞き納得して貰ってから、利用申込書を受付けている。体験入居は要望があれば、7日まで可能である。 ・利用者が雰囲気に馴染めるかどうか等を職員同士で話し合い、入居の可否を判断している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者は、職員と一緒に料理や食事を手伝い、食器洗い、買い物、居室の掃除などを行い、共に楽しみ支え合いながら過ごしている。 ・職員が利用者から料理の仕方、包丁の使い方、皮むきや刻みなどを教えていただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・職員は、日々の生活での会話の中から、また、利用者の表情から、利用者一人ひとりの意向や希望を汲み取るように努めている。 ・居室担当を決め、利用者との馴染みの関係をつくり、日頃の介護にあたっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・入居時、家族から利用者の持病・健康状態、日常生活、趣味、娯楽の4項目を提出して貰い、これらのアセスメントを基に職員が話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画の見直しは、全利用者を対象に原則6ヶ月毎に行っている。 ・その他、利用者の身体状況や利用者・家族の要望等により、必要に応じて随時介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年12月に医療連携加算の指定を受けている。 協力医療機関の内科医が、月2回訪問診療し、訪問看護師が月2回来訪して、健康管理を行い利用者の健康相談に応じている。 歯科医が訪問治療や口腔ケアにあたっている。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 本人や家族が希望する内科医・眼科医・整形外科医などのかかりつけ医による医療を、継続して受診できるように支援している。 特に希望がなければ、協力医療機関の内科医や歯科医で受診ができる体制となっている。 		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> 入居時に重度化した際の終末期のあり方や考え方について家族に説明している。 ターミナルケアは、家族の同意があれば行う意向である。 管理者はターミナルケアの研修を受講し、利用者の急変時や重度化した場合の対応について準備を進めている。 		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の保護については、職員は入職時、家族には入居時に誓約書を交わしている。 職員はプライバシーを損ねることのないように、会話の中で、言葉使いや対応には十分配慮している。 利用者には苗字・さんづけで呼ぶようにし、名前やあだ名は呼ばないように心掛けている。 		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の一日のスケジュールを大きく崩さないように、本人のペースを大事にして支援している。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立は、基本的には業者が提供する食材に基づいた食事となっているが、利用者の希望に応じて献立を変えることもある。なお、献立を変える場合は栄養士に相談している。 ・誕生会には、本人の希望の料理を聞いて、食事を楽しんで貰っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は原則として週2回以上と決めている。 ・入浴の時間帯は、1階は午前中、2階は午後となり、これが利用者の習慣となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者の一人ひとりの力量に合った役割を見つけて、決して無理強いすることなく、室内の掃除、洗濯干し・たたみ、調理、食器洗いなど見守りながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・利用者は天気の良い日や本人の気分や希望に応じて朝・夕2回の散歩を行っている。 ・散歩のコースは、利用者の体調に配慮し、歩行可能距離でグループ分けしている。近所の寺院の池で、鯉に餌をやることを楽しみにしている利用者もいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は玄関の鍵をかけず出入りを自由に行っている。ただし、1階・2階の階段近くのフロアーの出入り口は外出傾向のある利用者があることから、安全面を考慮し、家族の了解の上施錠している。 ・各居室の鍵は、本人の自由に任せている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・防災・避難訓練は、平成20年6月に消防署の指導で実施している。 ・運営法人作成の防災マニュアルが整備されている。	○	・防災・避難訓練は、消防署の指導と近隣の方々の自主的な参加で定期的実施することが望まれます。 ・災害時に備えて、飲料水や日用品の備蓄を希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事は、業者から食材を献立表と一緒に調達し、事業所内で調理し味付けをしている。献立表には1日のカロリー計算が明記されていて、管理栄養士が栄養価を管理している。利用者の体調等で献立を変更する場合にはその都度栄養士に相談し、指示を仰いでいる。 ・職員は利用者の一人ひとりの摂食量や水分の摂取状況を、チェック表に毎食記入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・窓からは、四季折々の訪れを感じる樹木が見え、居間は快適に過ごせるように、テーブルやソファ、テレビなどを配置し、明るい居心地のよい雰囲気となっている。 ・壁面には、利用者と職員が共同で作成した文字の大きなカレンダー、利用者の書いた習字や行事の写真が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各居室には、整理ダンスやテレビ、家族の写真、仏壇などが持ち込まれ、一人ひとりの個性のある落ち着いた雰囲気となっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム さくら園
(ユニット名)	1F ひばり
所在地 (県・市町村名)	横浜市 栄区 金井町1600
記入者名	加藤 清人(管理者) 坂井 智恵子(リーダー)
記入日	平成 20年 8月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念があり、地域の中での生活を豊かにするべく、行事等に反映させ取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各事務所、ユニットには目に入る場所に張り出している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	「第2の家」となるべく、グループホーム(少人数規模)だからこそできる事を行事、外出などに反映させている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や出・退勤の際には近隣の方々と挨拶を交わすことを励行し、できている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加させていただき、園の行事には足を運んでいただけるよう活動をしてきた。運営推進会議も行なうことができているので今後もこのような関係を維持していきたい。		

さくら園(ひばり)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、入居者家族だけに送付している「さくら園通信」だが、今後は内容や紙面を見直した上で地域にも配布して、「介護」「福祉」について更なる理解を得られればと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度、課題として残った部分は見直している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、2回を終了して、参加者からは貴重な意見を頂き、運営に活かされている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年度と同様に各種申請、手続きにも窓口に向うようにしている。認定調査や生活保護の担当者の来援もあり行き来する機会は十分だと考えている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護、後見制度は研修にも参加し、自己学習等も含め知識を高めるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修と市のお知らせ等で学ぶ機会を得ている。		

さくら園(ひばり)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を見直し不十分と思われる箇所は、別紙にて補足の文章を作成し、理解を求めている。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご自分からそれを伝えられる方は傾聴するように心掛けている。できない方は、企画、行事の後に、感想を伺うことで対応し介護計画の作成時の際には居室に伺ったりして思いを聞き出すようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議でその内容に関しては報告できている。入居者の状態については毎月、写真付きのお便り「さくら園通信」を送付してお知らせしている。運営推進会議のテーマとしても取り上げ、家族より意見ももらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	口頭でのご指摘に関しては職員に伝え、改善に努めている。機会がないゆえに伝えられないご家族がいるかもしれない。運営推進会議を利用して意見を募っていく。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談にて会社への要望、希望等を直接聞いた。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	企画や行事の際には出勤する職員を増やし、安全に楽しんでいただけるようにしている。急な欠勤についてもフォローし合える人数を確保している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人数調整の為の内部異動もあるが、ユニット間の交流があれば、その後の入居者へのダメージも緩和できると考えている。退職時の入居者への挨拶は職員に任せている。		

さくら園(ひばり)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>向上心を養う為、基本的には自己学習とOJTが当園の方針である。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者はGHブロック会に参加し、意見交換を行なっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士の親睦会などで日頃の疲れやストレスの軽減を図っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の意見傾聴と管理者側からの評価を伝えるという形で個人面談を行なった。継続を希望すること、見直すべきことを伝えた。</p>	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回の面接において先の内容においてはできている。入居後も慣れるまではその日その日の様子を伺い、不安の軽減に努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回の面接において先の内容においてはできている。入居後も慣れるまではその日その日の状況を電話でお知らせしている。</p>	

さくら園(ひばり)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GH入居希望者は急ぎの方が多い、当園が満床の際は系列施設の紹介や、他施設の入居状況の紹介をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	情報収集や雰囲気慣れていただく為に体験入居期間を設けている。期間中はその様子をご家族へ伝えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	我々は入居者との会話の中から昔の知識を得ることができ、共同作業の中から思いがけない時代背景をうかがい知ることができている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議においては積極的に意見を引出し、また行事などにも招待し、楽しい時間を共有している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時には定期的な面会をしていただけるようにお伝えしているが事情により来園機会の少ない方もいる。お便り「さくら園通信」によって毎月様子を報告し関係、距離を維持している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や文通はご自宅にいた際と変わらずにさせていただいている。かかりつけの病院も希望により入居時に伺い、継続して利用してもらえるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	1ユニット9名の男女が共同生活を送る中で、「合う」「合わない」は各場面で生じているが、反面、立ち上がる際にイスを引いたり上着に袖を通す際のちょっとした手助けにも人間関係を感じる。良い関係は維持できるように見守らせていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談等の連絡が来れば可能な範囲で対応させていただくが、昨年度はそういった相談はなかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活における思いや不満については「気付き」の目を養っていきたい。現在は会話の中から知るか直接聞き出すようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については入居時の書類にその様式があり、ご家族からは可能な範囲で詳しい情報を求めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	開所から3年が経過し、入居者のADL状況にも変化が現われている。散歩においても全員が同じコース楽しめない。その日の具合もあり、状態に合わせて時間やコースを分けている。また昼寝も促がすことで疲れを癒している。入居者のを型にはめぬように対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ニーズは家族、本人に直接伺っている。またうまく言葉にできない方にも引出すようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入・退院でのADLの変化、認知症状の変化が表れた場合などには認定期間中でも計画書の作成を行い、情報収集したうえで対応策を検討し、変化が著しい場合は家族に相談し、区分変更を申請する等の対応をしている。		

さくら園(ひばり)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	概ねできてはいるのだが、情報の共有に関しては行き届いていない部分がある。日々の介護記録についてもその内容については見直しが必要であり、職員への教育が必要だと考えている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いや個人物品の購入、行政関係の申請、手続き等を代行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の意向とは異なるが、避難訓練では消防隊員の方に来園していただき、避難方法や道具の使用方の指導を受けた。民生委員には運営推進会議に参加していただいた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用していることはないが、他施設のケアマネジャーとの集まりに管理者は定期的に参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働して何かという関係はないが、包括支援センターのケアマネジャーの方には運営推進会議にも参加していただき、相談。助言ができる関係にある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外の病院をご希望される方もいるが、在宅時からのかかりつけ等の場合は引き続き継続していただいている。また眼科整形、歯科は近所の病院を利用し、医療機関においても地域密着を行なっている。		

さくら園(ひばり)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	必ずしも敬語がすべてではないと思っている。呼称も相手を理解した上で使っている。会話言葉も、周囲が不快に思わない程度に崩している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お手伝い、洗濯干しなどの家事関係については大丈夫である。強制ではなく促す形の声掛けができています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は声掛けをまめに行なうことで希望に合わせて対応するようにしている。居室に入られてしまう方についても、見に行くなど気にかけるようにして孤立を防いでいる。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	決定できない方のおしゃれについては、その日に出勤している職員のセンスになってしまっている。美容は訪問にてカットを行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は好みに合わせて作っている。準備や片付けも入居者の方と協働している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の中では喫煙者はいない、飲酒は夏季のバーベキューや元旦、敬老等、季節行事に提供している。おやつにも好き嫌いがあるのでストックの範囲で代替が可能である。	

さくら園(ひばり)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれパターンがあり、見守りが必要な方に関しては付き添いを行なう。入居者2名が今年に入り、紙パンツから布パンツに移行された。1人はパットのむしり癖があったがケアプランにもあげて対応した結果であり、1人はもともと用心程度で履いていたのを話をし、試行期間を経て結果を得た。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	残念だが職員に合わせていただいているのが現状である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	見たいテレビ番組や、その日の体調に合わせて休んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事等のお手伝いは、毎日の生活の一部となっている。塗り絵や水彩画等の趣味を大切にできるように、他のレクを無理強いしないようにし、大切な時間も支援している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は手元に置かない方針であり、入居時に説明を行い理解を得ている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩を行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出企画は定期的に行い、いろいろな所へ行けるようにしている。何処へ行きたいか等の意見は余り反映されていない。		

さくら園(ひばり)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は預かりで職員が投函している。電話は希望に応じ使用している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や近所の方の来園の際には、気持ちの良い挨拶で迎え、お帰りの際にも不快にならないように挨拶を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に当たる内容は細かく分類されていることは知っている。日々の生活の中で拘束に該当していることを多々、してしまっているかもしれない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットへの出入口と浴室の2箇所については離設と危険防止の為に施錠している。今後は、開錠と施錠の時間を決めて行きたい。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は巡視による安否確認を行なっている。日中は共同スペースにいない方の居室に行く等して所在確認としている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者同士のトラブルの原因となってしまうので、ほとんどを撤去という対応にしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険予測は今夏、ヒヤリハットの強化等で理解を促したが、継続できなければ意味がない。一人一人に合わせているかとなると、もう少し職員個人の意識が必要と思う。		

さくら園(ひばり)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応はマニュアル化してあるので、夜間でも速やかな対応が取れている。怪我等の応急処置の訓練は定期的に行なっていない。冬季消防訓練では三角巾等の講習を受ける予定となっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春季に消防訓練(総合訓練)を行なったが、すべての職員が参加したわけではないので、今後参加させていきたい。地域の自警団との接触はまだない。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には入居の際や、入院等で状態に変化が現われた時等に説明を行っている。抑圧感に関しては確認を取るすべがない。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝と入浴時のバイタルチェックで数値の推移には特に気を使っているし、その方の平均値を、職員それぞれが概ね把握している為、以上の早期発見には取り組んでいるといえる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の把握がまだ甘い。セットする段階からのミスが未だになくなる。下剤についてもパターンで服薬するはずが、忘れがあったりする。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常の運動と服薬コントロールを行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食行なっている。介助が必要お方には付き添っている。		

さくら園(ひばり)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	水分量が少ない方には、味等に変化を付けて摂取を促している。	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	病気に関する知識や理解をしている職員は少ない。各所にアルコールを配置し、うがいや手洗いは確実に実施している。	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	台所の消毒と調理器具は毎日、煮沸消毒対応を行なっている。食器は棚の段を日割して、同じく消毒を行なっている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	玄関はお客様が初めて見る場所なので、掃除を徹底して常に清潔感を保っている。花などを飾って気持ちよく入っていただけるようにしている。	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	こまめな掃除で共有スペースの清潔は常に維持できている。	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	席の配置は入居者間の中もあり、ある程度は決まっているが、常時固定はしていない。	

さくら園(ひばり)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある品で居室はレイアウトしていただいているが、職員の意見が多く反映されている部分もあるので、完全に本人の本意の居室になっていない方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は適宜行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の設備で特に問題はない。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	大声、高い声、早口、否定的な返答などで余計な混乱を招く場面は今でも見受けられる。春季には職員面談を行なって、個人的な注意をしている。項目51、52への取り組みを強化していきたい。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドテーブルと大型パラソルがあり、外気を楽しめる環境がある。小さいが菜園と花壇もあり、裏庭にはキウイフルーツがたわわに実り、収穫時期にはおやつや食事の際に食べている。また、柿の木もあり青い、実ができてきている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

さくら園(ひばり)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

季節行事はもちろん、当園には他園にはない夏期のバーベキュー会があり、近隣の方やご家族に参加いただいている。周囲の景色も自慢の一つである。田園園風景や竹林が横浜市内だと感じさせない懐かしさがあります。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム さくら園
(ユニット名)	2F うぐいす
所在地 (県・市町村名)	横浜市 栄区 金井町1600
記入者名	加藤 清人(管理者) 桜井 清子(リーダー)
記入日	平成 20年 8月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念があり、地域の中での生活を豊かにするべく、行事等に反映させ取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各事務所、ユニットには目に入る場所に張り出している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「第2の家」となるべく、グループホーム(少人数規模)だからこそできる事を行事、外出などに反映させている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や出・退勤の際には近隣の方々と挨拶を交わすことを励行し、できている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加させていただき、園の行事には足を運んでいただけるよう活動をしてきた。運営推進会議も行なうことができているので今後もこのような関係を維持していきたい。		

さくら園(うぐいす)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>現在、入居者家族だけに送付している「さくら園通信」だが、今後は内容や紙面を見直した上で地域にも配布して、「介護」「福祉」について更なる理解を得られればと考えている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年度、課題として残った部分は見直している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>現在、2回を終了して、参加者からは貴重な意見を頂き、運営に活かされている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>昨年度と同様に各種申請、手続きにも窓口に向うようになっている。認定調査や生活保護の担当者の来援もあり行き来する機会は十分だと考えている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護、後見制度は研修にも参加し、自己学習等も含め知識を高めるようにしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修と市のお知らせ等で学ぶ機会を得ている。</p>		

さくら園(うぐいす)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を見直し不十分と思われる箇所は、別紙にて補足の文章を作成し、理解を求めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご自分からそれを伝えられる方は傾聴するように心掛けている。できない方は、企画、行事の後に、感想を伺うことで対応し介護計画の作成時の際には居室に伺ったりして思いを聞き出すようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議でその内容に関しては報告できている。入居者の状態については毎月、写真付きのお便り「さくら園通信」を送付してお知らせしている。運営推進会議のテーマとしても取り上げ、家族より意見ももらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	口頭でのご指摘に関しては職員に伝え、改善に努めている。機会がないゆえに伝えられないご家族がいるかもしれない。運営推進会議を利用して意見を募っていく。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談にて会社への要望、希望等を直接聞いた。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	企画や行事の際には出勤する職員を増やし、安全に楽しんでいただけるようにしている。急な欠勤についてもフォローし合える人数を確保している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人数調整の為の内部異動もあるが、ユニット間の交流があれば、その後の入居者へのダメージも緩和できると考えている。退職時の入居者への挨拶は職員に任せている。		

さくら園(うぐいす)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>向上心を養う為、基本的には自己学習とOJTが当園の方針である。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者はGHブロック会に参加し、意見交換を行なっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士の親睦会などで日頃の疲れやストレスの軽減を図っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の意見傾聴と管理者側からの評価を伝えるという形で個人面談を行なった。継続を希望すること、見直すべきことを伝えた。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回の面接において先の内容においてはできている。入居後も慣れるまではその日その日の様子を伺い、不安の軽減に努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回の面接において先の内容においてはできている。入居後も慣れるまではその日その日の状況を電話でお知らせしている。</p>	

さくら園(うぐいす)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GH入居希望者は急ぎの方が多い、当園が満床の際は系列施設の紹介や、他施設の入居状況の紹介をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	情報収集や雰囲気慣れていただく為に体験入居期間を設けている。期間中はその様子をご家族へ伝えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	我々は入居者との会話の中から昔の知識を得ることができ、共同作業の中から思いがけない時代背景をうかがい知ることができている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議においては積極的に意見を引出し、また行事などにも招待し、楽しい時間を共有している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時には定期的な面会をしていただけるようにお伝えしているが事情により来園機会の少ない方もいる。お便り「さくら園通信」によって毎月様子を報告し関係、距離を維持している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や文通はご自宅にいた際と変わらずにいただいている。かかりつけの病院も希望により入居時に伺い、継続して利用してもらえるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	1ユニット9名の男女が共同生活を送る中で、「合う」「合わない」は各場面で生じているが、反面、立ち上がる際にイスを引いたり上着に袖を通す際のちょっとした手助けにも人間関係を感じる。良い関係は維持できるように見守らせていただいている。		

さくら園(うぐいす)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談等の連絡が来れば可能な範囲で対応させていただくが、昨年度はそういった相談はなかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活における思いや不満については「気付き」の目を養っていきたい。現在は会話の中から知るか直接聞き出すようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については入居時の書類にその様式があり、ご家族からは可能な範囲で詳しい情報を求めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	開所から3年が経過し、入居者のADL状況にも変化が現われている。散歩においても全員が同じコース楽しめない。その日の具合もあり、状態に合わせて時間やコースを分けている。また昼寝も促がすことで疲れを癒している。入居者のを型にはめぬように対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ニーズは家族、本人に直接伺っている。またうまく言葉にできない方にも引出すようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入・退院でのADLの変化、認知症状の変化が表れた場合などには認定期間中でも計画書の作成を行い、情報収集したうえで対応策を検討し、変化が著しい場合は家族に相談し、区分変更を申請する等の対応をしている。		

さくら園(うぐいす)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	概ねできてはいるのだが、情報の共有に関しては行き届いていない部分がある。日々の介護記録に関してもその内容については見直しが必要であり、職員への教育が必要だと考えている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いや個人物品の購入、行政関係の申請、手続き等を代行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の意向とは異なるが、避難訓練では消防隊員の方に来園していただき、避難方法や道具の使用方の指導を受けた。民生委員には運営推進会議に参加していただいた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用していることはないが、他施設のケアマネジャーとの集まりに管理者は定期的に参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働して何かという関係はないが、包括支援センターのケアマネジャーの方には運営推進会議にも参加していただき、相談。助言ができる関係にある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外の病院をご希望される方もいるが、在宅時からのかかりつけ等の場合は引き続き継続していただいている。また眼科整形、歯科は近所の病院を利用し、医療機関においても地域密着を行なっている。		

さくら園(うぐいす)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等はきちんと取り扱えている。皆さんが長い人生経験をお持ちになり、私たち職員の先輩で、尊敬する気持ちをいつも持って言葉使いには注意している。馴れ合いのために、言葉使いが不適切であったり、強くなってしまうことがある。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人に何でも聞くようにしているが、忙しいときは一方通行の時もある。ゆっくりお話お話をしたり、希望を聞いたり、一緒に考えている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、午睡や居室内でのTV、ゲーム、くつろぎ、花の水やり等、その人らしい暮らしをしていた。孤立しないよう声掛けはしている。できるだけ努力をしているが、1日の業務をこなすだけでいっぱいの時もある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節ごとの衣替えを行なっており、その方が着たい衣服を着ていただいている。自己選択が困難な方にも声掛け等の対応をしている。理髪店は個人で行きつけへ行かれる方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、テーブル拭き、盛り付け、洗い物は一緒に行なうときもある。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の中では喫煙者はいない、飲酒は夏季のバーベキューや元旦、敬老等、季節行事に提供している。おやつにも好き嫌いがあるのでストックの範囲で代替が可能である。	

さくら園(うぐいす)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄パターン、習慣を考えて支援している。リハビリに通うことでADLが回復し、テープ式のオムツから紙パンツになり、排泄場所がベッドからトイレへアップした方もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や排泄の失敗等に合わせ、速やかな対応ができています。希望にあわせた曜日設定はしていない。入浴順は納得できるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠状況に応じて、午睡を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯干し、畳み、テーブル拭きなどを手伝っていただいているが、無理強いはいしない。ストレスがたまっているときなどは個別に対応するなどまだ足りていない。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は手元に置かない方針であり、入居時に説明を行い理解を得ている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天、夏季の猛暑の際は控えるほか、ほぼ毎日の散歩を行なっている。入居者の体力、体調に合わせてグループ対応をしている。健康の維持やストレスの発散に努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出企画の際は、入居者に行きたい場所を聞いている。家族との外出などの際には、保険証を預けたりいつでも連絡がつくように後方支援を行なっている。		

さくら園(うぐいす)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望がある時に、番号を押したり取次ぎの代行ができている。手紙に関しては、最近ほとんど利用されていない。文字を書く機会を支援していきたい。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で挨拶し、気持ちよく来園できるように心掛けている。お茶を運び日常の様子を伝えている。廊下等に貼られているレクや外出写真を見ていただき自由にできる環境はできている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべてのスタッフは理解できていない。そのような機会が欲しい。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けていない。ユニットへの出入口には鳴り物がつけてあるが、監視目的にならぬように、音はさわやかな風鈴のそれである。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在確認をしている。居室、トイレを巡回し、把握している。夜間の場合は、いるかいないかではなく、いびきや胸の動き、呼吸音などを観察のポイントとしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針や包丁、はさみは使用後速やかにしまうようにしている。入居者の状況に応じ、洗剤等の保管場所を変える。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険性があるときはその都度、スタッフ同士で注意を呼びかけるが、普段からの事故防止意識は低いと思われる。考える機会が必要。		

さくら園(うぐいす)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応はマニュアル化してあるので、夜間でも速やかな対応が取れている。怪我等の応急処置の訓練は定期的に行なっていない。冬季消防訓練では三角巾等の講習を受ける予定となっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春季に消防訓練(総合訓練)を行なったが、すべての職員が参加したわけではないので、今後参加させていきたい。地域の自警団との接触はまだない。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には入居の際や、入院等で状態に変化が現われた時等に説明を行っている。抑圧感に関しては確認を取るすべがない。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	報告、記録に関してはできている。情報の共有化により早期発見、対応ができている。ユニット内ではできているが、ユニット同士では余りできていないように感じる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容をすべて把握する事はできていないが、服用前に確認する際に足りないものに関しては気がつけるまでにはなってきた。処方変更時には混乱を避け、どのような理由で追加、削除されたかを記録し報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促がしている。無駄な薬は減らし、食物や運動により対応している。便秘はあまりないが、自立されている方ほど職員の確認ミスがあり、必要のないときに飲ませてしまうこともある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを行っているが、ここでも自立されている方ほど目が届いていないことがある。		

さくら園(うぐいす)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

さくら園(うぐいす)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望するレイアウトや持参品は少なく、ほとんど家族や職員の都合となっていることが多いが、結果、危険の少ない居室にはなっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜、窓を開けて換気に努めている。臭いに関しては消臭剤により対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差、手すりなどはもちろんついてはいるが、入浴設備は既に限界であり、入居者の状態で浴槽に浸かれない方もいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	大声、高い声、早口、否定的な返答などで余計な混乱を招く場面は今でも見受けられる。春季には職員面談を行なって、個人的な注意をしている。項目51、52への取り組みを強化していきたい。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドテーブルと大型パラソルがあり、外気を楽しめる環境がある。小さいが菜園と花壇もあり、裏庭にはキウイフルーツがたわわに実り、収穫時期にはおやつや食事の際に食べている。また、柿の木もあり青い、実ができてきている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

さくら園(うぐいす)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

園の周辺は山、畑他、自然に囲まれ、空気が良く四季折々に草花、果物、野菜を見て楽しむことができる為、毎日日課となっている散歩はとても健康的で、皆様、楽しまれています。園の庭には、柿の木やキウイフルーツ、桜、桃の木などが植えられています。近所の子供たちも遊びに来てくれますし、散歩や出勤時の挨拶から始め、地域に溶け込み、地域の方々と安心して歩んでいきたいと思っています。

季節の行事は、職員がそれぞれ努力して取り組んでいますし、外出企画のレパトリーも増えてきました。個人を尊重し、自分らしく健康に、楽しく安心して過ごしていただける園を目指し、日々努力していきます。